

第9回きのさき温泉YOSAKOIまつり 6月7日(土)開催

情熱と躍動を感じて 踊り狂えば心も晴れる

城崎地域には、城崎温泉YOSAKOIまつりを成功させようと、準備を進めている実行委員会があります。今回は、その中心的存在の女性を紹介します。



JR城崎温泉駅前で繰り広げられるステージイベント

川崎 綾子 さん(61歳)城崎町湯島在住

観光のまち城崎で よさこい祭りを

初夏の風物詩となりつつある「きのさき温泉YOSAKOIまつり」。このまつりが開催される6月の第1土曜日、城崎温泉街一帯は、踊り手たちの熱気に包まれます。全国から約50チームが参加し、それぞれ個性を表現した踊りが繰り広げられ、沿道の観衆の視線を釘付けにします。

このまつりの実行委員長を務める川崎綾子さんは「自由な風潮と情熱あふれるよさこいは、城崎の情緒にぴったりです。静の城崎、動のよさこい。最高の組み合わせです」と胸を張ります。

城崎町商工会を母体とする実行委員会では、全国から訪



きのさき温泉YOSAKOIまつり実行委員会の委員長を務める川崎さん。日本舞踊の名取でもある。笑顔と元気が自慢で、趣味は旅行とドライブなど

れる人々をもてなし、イベントを成功させようと1年がかりで準備しています。

川崎さんが地元城崎でよさこいを始めたのは、高知市のよさこい祭りをテレビで見たことがきっかけです。豊かな観光資源を活かして多くの

人々を呼び込み、地域の活性化につなげようと考え、本場の高知市を訪問し、よさこい祭りについて学びました。

自由と気軽さがうけて 人気急上昇

よさこいは、戦後の不況時に「何とかしなければ」という思いから、阿波踊りを参考に、高知商工会議所が中心となって考え出したものです。

曲も踊りも衣装も自由で、「カタカタ」と鳴る鳴子と「よさ

こい鳴子踊り」のフレーズを取り入れればよいことになっています。そんな気軽さと自由さが人々に受け入れられ、全国に波及していき、伝統や伝承にとらわれないスタイルが時代や流行音楽とともに進化してきました。現在では、全国200カ所以上の祭りやイベントに広がっています。

地域住民も参加して まつりを盛り上げる

川崎さんは、祭りの中心的チーム「湯上り美人参上」の代表も務めています。平成10年に発足し、市内在住の10〜70歳代まで30人が所属しています。

同会は、まつりに参加するため、毎年3月上旬になると忙しい合間を縫って、週3回の練習に励んでいます。そして大会直前の5月下旬になると、練習にも熱がこもり、ほぼ毎日練習しています。

また、川崎さんは、もう一人のメンバーとともに地元の城崎中学校1年生の踊りの指導にも当たっています。

城崎中学校では、学校活動の一環として、毎年、1年生がまつりに参加することになっています。

こうしたイベントに地元の

学校が活動の一環として参加することは全国的にも珍しく、地域を挙げてこのイベントを作り上げていこうという城崎町民の心意気を感じられます。

踊れば自然と 笑みが浮かぶ

今年で9回を数える「きのさき温泉YOSAKOIまつり」。地元の人々も心待ちにしています。

川崎さんは「踊りに没頭すると心が空っぽになって悩みや辛いことも忘れられます。私たちがこうして踊り続けられるのは家族の協力があるからこそ。多くの人々に助けられながらですが、これからも踊り続けたいです。メンバーを募集していますので、ぜひ参加ください」と話していました。



メンバーの宮本邦子さん(城崎町湯島)の指導を受けながら練習が繰り返される

保育園に広報マンがやってきた！ ③

小坂保育園

(出石町鳥居)

園児 69人



近くの人工巣塔にコウノトリが飛来する小坂保育園。4月14日、人形劇と紙芝居が行われるようなので、その様子をのぞいてみました。

みんなでウルトラマン体操だ！

まずは、人形劇や紙芝居を見せてくれるグループ「ぼんぼこ劇場」のお姉さんと一緒に、ウルトラマン体操をしてふれあいしました。

そのあと、ピアノの曲に合わせてホワイトボードにお絵



は、家族をモデルにして作った人形でした。お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんがあちやんが次々に登場すると園児たちはとてもうれしそうにしていました。



そのほか、パンダやクマなどの動物も登場して、園児たちは大はしゃぎ。大人気の人形劇でした。

紙芝居って面白いなあ

次は紙芝居です。タイトルは「てんぐとかつぱのかみなりドン」。園児たちは、お姉さんたちの手作り紙芝居に真剣な表情で見入り、話に耳を傾けていました。



なんか面白い人形が出てきたぞ！

さあ、次は楽しみにしていた人形劇の時間です。四角く囲った舞台から顔を出したの



最後は、お姉さんたちにお礼を言って、楽しい時間を過ごしました。

顔輪笑の

今日も楽しくソフトバレーボール
「こだま」(但東)

但東地域でソフトバレーボールをするグループ「こだま」は、毎週木曜日の夜、但東中央体育館で楽しく汗を流しています。同グループは取り組むスポーツや練習形態を変えながら30年以上も活動を続け、現在、60〜70歳代の14人が所属しています。

代表の大岸美津子さん(但東町矢根)は「ソフトバレーボールは気軽にできるので気分転換にはもってこいのでスポーツです」と話します。

ソフトバレーボールは、ゴム製の柔らかいボールを使い、ネットの高さを2メートルにしたバドミントンのコートで行うスポーツです。1チーム4人で行い、子どもから高齢者、バレーボール未経験者も気軽に楽しめます。

同グループの練習は、まずはウォーキングから始め、次にストレッチ体操、そして3〜4チームに分かれて試合形式でソフトバレーボールを楽しみます。



元気が自慢のメンバー

楽しく、汗もかけるので気持ちがいいです」と口をそろえています。体の柔らかい人、楽しい話題で周りを盛り上げる人、控えめだけソフトバレーボールの上手な人。それぞれの持ち味が引き立て合っていて、元気が自慢の「こだま」は成り立っています。

同会は、現在では試合に出場することはありませんが、「自分たちのできる範囲で気軽にスポーツを楽しむ」、そんな気楽なスタイルが30年以上も活動を続けられた秘訣です。但東中央体育館では、今日も笑い声が「こだま」しています。